

所属・資格 総合文化研究室・助教

申請者氏名 田中 絵里子

研究課題		特別支援学校における修学旅行の行先決定要因に関する分析
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究では、障害等の理由で旅行行動に何らかの制約が生じる方々の行動実態と必要とされるサポート内容を明らかにすることを目的としている。そのために、様々な障害を抱える児童生徒が通う特別支援学校の校外活動である修学旅行に着目し、目的地を決定する際のプロセスを明らかにしようとした。なお、これまでの研究では、特別支援学校においても普通学校と同様に修学旅行が実施されているものの、障害等を理由に参加できない児童生徒がいることや、教員の負担が大きいことが明らかとなっている。
	研究の結果	障害者の旅行をサポートする取り組みは情報提供や施設整備等で進んでいるが、特別支援学校には依然、教員の負担やバリアフリー情報の不足、新しい ICT 技術への対応などの課題が山積している。これまでに特別支援学校を対象に実施した調査の中から、参加者属性や行動パターンを類型化したところ、学校の立地による地域差はあまり認められず、参加者の障害種別や度合いが行程や利用施設の選択に影響していることがわかった。 一方、受け入れ側の施設整備に目を向けると、バリアフリー対策は急務の課題として積極的に整備が進められている。しかし、観光地の特性によっては必ずしもすべての人々が平等に同じ場所から景色を楽しんだり、体験したりすることができない状況も明らかになった。
	研究の考察・反省	日本国内では観光地のバリアフリー化が急速に進められ、障害者や高齢者が安全に旅行を楽しめるよう、様々な取り組みがなされてきた。その中身は、施設整備や受け入れ側の教育など、多種に及んでいる。施設整備などのハード的な対策は非常に重要であり、障害者の旅行の行先決定には大きな条件のひとつともなる。その一方で、例えば特別支援学校の教職員たちが工夫してきたような人が対応できるソフト的な対策も、すぐに取り組める課題だといえる。 今後は観光地側の取り組みとして、すぐに実施できるサポート内容や情報提供の在り方についても検討する必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 [研究発表] The First International Conference on Local Studies and Local Culture of Asia Development and Reality of the Accessible Tourism in Japan 25-27 October, 2019 – Beijing, China	